

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部

事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1

四国医療専門学校 作業療法学科内 (一社)香川県作業療法士会事務局

E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

寄り添う作業療法

医療法人社団みどり会 加藤病院 松本 勉

令和6年度は医療・介護・障害福祉の診療報酬のトリプル改定がありました。その中の医療の改定で、疾患別リハビリにどの職種が実施したのかを明確にするため、実施者別区分が設けられました。これはDPCなどのデータによって、実施者ごとの訓練の実態を把握するための対応で、リハビリの標準化に繋がりたいのではとされています。職種別のリハビリの実施状況を見える化にする事の目的はわからないけれど、リハビリは個々の職種だけで患者様に合わせたりハビリを行っているのではなく、患者様などの目標が達成できるように、多職種のリハビリチームでカンファレンスなどを行いながら情報共有して、それぞれの職種がその職種の手段を用いてアプローチをしています。このようにリハビリはチームで関わっているので、患者様の状態の変化がどれかの職種によって得られたものかはこのデータから判断する事は難しいのではと思います。今後、実施者別区分が出来た事で診療報酬がどのように変わっていくかわかりませんが、チームの中の作業療法士として患者様の時期や状態に合わせて作業療法をしっかりと行っていく事が大切だと思います。そのため、より良い作業療法を行っていくには、患者様は常に心のどこかで、これからの不安や日常生活への不自由さを抱えていたりします。だからこそ、患者様がどういう気持ちで過ごしているのかを考えて、患者様の感情に寄り添う気持ちが重要になります。また、自分自身が健康でなければ、良い作業療法は行えないと思っていますので、日ごろから健康に注意するようにして、オンとオフを使い分けてリフレッシュして自分自身が心身ともに健康でいることも大切です。このような、人との関わりを大切にした作業療法を実践していく事で、作業療法が信頼されるようになり、発展していくのではと思っています。これからも患者様に寄り添う作業療法を行っていきたいと思います。

先輩の声

No.57 香川県立高松支援学校 川端 華寿美
(20年目)



私は、精神科病院とリハビリテーションセンターでの勤務経験を経て、現在は香川県立高松支援学校で勤務しています。支援学校では、昨年度は自立活動室に配属され、小学部から高等部の児童及び生徒の実態に応じて必要な力を養う自立活動の授業を担当したり、生活場面での困りごとに対して学級の先生たちと協力しながら支援したりしました。今年度は小学部の学級担任となり、教育的な視点での支援については一から学んでいるところで、とても新鮮な気持ちで楽しく奮闘しています。

作業療法士の資格を持つ教員として支援学校で支援できる環境は全国的にも珍しく、とても貴重なことだと感じています。病院で勤務していた際には、担当する子どもの生活や学習場面の実態や困りごとが十分に把握できず、必要な支援ができていたのだろうか?と思い悩むことも多かったように思います。それを踏まえると、学校という多くの時間を過ごす場所で支援できることは、子ども達の実態や取り巻く環境が見えやすく、またそれぞれが抱えている困りごとや保護者の思いにも寄り添えるため、より必要な支援を導きやすいと感じています。

特別支援教育の分野では、広い視点で特性を捉え、型にとらわれずに各々の子どもに応じた支援方法を模索し、可能性を引き出していくことが大切だと感じています。その際、自分自身がさまざまな経験を通して得られたことがいろいろな場面で繋がり、支援を導き出す際に役立つことがあります。伸びようとする子ども達の可能性を最大限広げる支援ができるように、まずは自分自身が経験することや挑戦することに貪欲に、また自分の思考を常にクリアに保って知識をアップデートし、子ども達や現場から必要とされる人でありたいと思っています。

まずは、これまでの経験から得られた専門的な視点をいかし、組織のなかで求められていることを模索し、親しみやすく相談しやすい人であることを大切に、教育現場で作業療法士の資格を持つ教員が協働的に取り組める実績を作っていきたいと思っています。その先で、香川県の特別支援教育の発展や作業療法士の職域が広がっていくことの一助になればと感じています。



No.58 医療法人 西山記念会 MIRAI病院 鶴窪 良樹

(19年目)



京都から香川に来て10年目となりました。京都にいる頃は恥ずかしながら県士会活動にどちらかといえば消極的で学会や研修会に参加する程度でした。香川県に来て2年目で學術部に入り県士会活動や協会の活動に目を向けるようになると、職能団体として教育や対外的な関わり的重要性、そして組織率が低くなると今後、OTとしての立場が危ぶまれてしまうことなど、組織としての県士会の必要性を感じるようになりました。

學術部では昨年度より部長を任命していただき、若手を中心としたOUDON会という勉強会を新設し、県学会も実行委員長として取り組みました。OTという資格を持ち技術職である以上、學術活動は特に重要なものと考えています。医療の進歩は早く、ほんの10年前と比べても知識やアプローチは大きく変わってきています。その変化に付いていかなければ目の前の患者さんに最善のものが提供できないのではないかと感じています。

自分自身をアップデートする、その為には学会参加することが重要だと考えています。県学会にまず参加し、発表を通してディスカッションし、より良い治療や関わりが行えるように切磋琢磨することが必要では無いかと思っています。参加者を増やし良い学会へとなる為には企画側の働きや、費用の話だけでは無く、個人個人の意識だと思っています。このニュースを読まれている方は意識が高い方だと思っています。先生方の熱意によりその周囲が動くのでは無いかと思っています。ぜひ周囲への働きかけを行って頂き、県学会への参加をお待ちしております。

學術部ではこれからもなるべく最新の治験や興味を引く話題を提供し続けていきたいと考えています。年間を通して勉強会や研修会のお知らせを出しています。新人の方からベテランの方まで、少し行ってみようという軽い気持ちでぜひ参加してみてください。

…偉そうなことを言っていますが自分としても何を成し遂げたわけでもなく、満足に治療できたと胸を張れることは出来ていません。熱意ある先生方が参加されることで自分の知識にもなり刺激も受け、頑張れるので、香川県全体を盛り上げが自分の為にもなれば良いなとずる賢く考えている次第です。

日々の業務も、今年度から主任という役職に就かせていただいておりますが先輩後輩に助けられてばかりいます。リハビリ部全体のことや後輩の教育を考えながら自分自身も学習している日々です。學術部の活動も部員の皆さんに頼りきっています。周りの助けと繋がりがなければ何も成し遂げられていないと感じています。プライベートではサッカー(フットサル)、釣り、キャンプが趣味ですが、保育園のPTA会長も数年引き受けてしまい常に何かに追われている状況でなかなかできていない現状です。40代に入り、休息や息抜きが無いと心身ともに疲弊してしまうとまさに今、感じている所です。

公私共にこれからも人に頼りつつ自分の出来ることを最大限に、そして息抜きは多めに楽しく過ごしていけたらと考えております。

第33回 四国作業療法学会を終えて

医療法人社団以和貴会 いわき病院 村上 太気



2024年6月8・9日の二日間、綾歌総合文化会館アイレックスにて、第33回四国作業療法学会が盛大に開催されました。

今学会のテーマは「出会う」。この言葉をテーマとした理由を、小松学会長は「出会うを阻まれるという事は、作業や活動・参加が阻まれるという事。作業療法士として、人びとの『出会う』を支える事が必要だ」と語っています。その言葉通り、今学会の講演・シンポジウム・演題の内容は、クライアントの「出会う」を支え、そして促進させる事の重要性を再認識させられる、素晴らしいものばかりであったと感じました。

それを私が特に感じたのは、株式会社イトラック 佐藤考臣 先生による基調講演「地域共生社会について」です。先生は講演の中で、「作業療法士は、クライアントはもちろんの事、他職種や近隣住民、企業・団体、そして行政とも連携し、多くの人々を巻き込んで前進していく力が必要だ」という力強いメッセージと共に、先生の上手く連携を進められた経験や、逆に悔しかった経験などを赤裸々にお話していただきました。このお話を聞いて、日々の自身の業務内容を振り返って反省すると共に、まだ見ぬ人達と出会う連携していく事への勇気ももらえました。

その他にも一般演題にて、多職種連携による就労支援や、地域住民を巻き込んでのマルシェの開催等々、創意工夫と行動力、そしてそれらを諦めずに継続していく努力により出会うを創造されている、素晴らしい活動報告がされていました。

自分の弱さや至らなさ謙虚に向き合い、そして、だからこそ他の人を巻き込む大胆さを発揮していく事の重要性を、この学会全体を通して感じました。私は、臨床経験が長くなるにつれ、無意識の内に自分の慣れたフィールドの中だけで行動しようとしてしまいがちになっている、と感じるので、それを意識して打破できるよう、行動していきたいと思います。



第25回 香川県作業療法学会を終えて

第25回香川県作業療法学会 運営委員長 鶴窪 良樹

2024年1月28日(日)に、第25回香川県作業療法学会を開催しました。坂出市民ホールにて4年ぶりの対面開催となりました。学会テーマは「CONNECT～人と繋がる作業療法～」で特別講演、シンポジウム、演題発表を行い参加者は88名でした。

特別講演には、リハ塾SHINの本田慎一郎氏をお招きし、「臨床はわからないことで溢れている。」というテーマで、臨床におけるさまざまな「つながり」に着目し講演を行っていただきました。実際の症例を通し、対話から生きる世界を紐解き、なぜ、その介入を行ったか、思考のプロセスを教えていただくことができました。本人しか感じることでできない世界を聴取し身体知覚を促し認識を変化させていくことで、身体や行為が変わる瞬間を見ることができました。私たちはどんな分野であれ、対象者の声を聞き、寄り添い、問題を解決していく必要があります。その大切さを改めて感じる事が出来たことと、日々新しい知識を取り入れ、患者さんの病態を解釈していかなければならないと鼓舞されました。

シンポジウムでは様々な領域でご活躍している県内の先生方をお招きし、学会テーマである「CONNECT～人と繋がる作業療法～」についてディスカッションを行いました。広瀬病院の田村篤史先生から「香川県の地域包括ケアシステム構築と作業療法士の活動」、災害特設委員会の安西誠先生からは「災害支援を行う立場から」、四国医療専門学校の西井優子先生からは「子供の育ち、つないで・つなげて・つながって」、高松刑務所法務技官の辺見佳壽子先生からは「刑事施設での作業療法士の役割」についてそれぞれお話をいただきました。詳細は割愛しますがそれぞれの取り組みと、今後の展望について短い時間ではありましたが具体的にお話しいただきました。それぞれ異なる職場にいらしても、OTとして考えないといけない部分や、今後協力できる視点も沢山ありました。その考えや取り組みを聞き、まず知り、考えることができるキッカケ作りとなれたことがこのシンポジウムの意義であり、人との繋がり大切さを学べたのではないかと思います。対面開催でしか感じる事が出来ない空気感や、臨場感を懐かしむと共に、運営する側としても切磋琢磨していこうと思える学会となりました。

終了後のアンケートには「駐車場が無い」や「会場が広すぎる」との声もありました。しかし、県学会として、これからは多くの方に参加していただきたい想いも込めて800人が入れる規模で、対面開催の再開を行いたかったという意図があります。また「参加者が少なかった」との声もいただきました。今後の学会を会員の皆様にとって魅力的な企画を考えていくと同時に、県内のOT各個人の意識を変えていく必要があるとも思っています。我々を含めた会員全体が、より意識や熱意を持って盛り上げていこうと思わないと学会自体が成り立っていかないと思います。一人の情熱が周りを動かし、全体に“繋がって”いくのでは無いでしょうか？学会こそがOTを学問とする原点だと思えます。今後も学術部の活動に今一度、ご参加ご協力をお願いいたします。

次の学会は、2025年1月19日です。次回から優秀賞などの賞も企画中です。また今回もキッズスペースを設けましたが、子供さんを連れてきても参加しやすい方法を今後も考えていきます。ポスター発表など若いセラピストが議論しやすい場所も設けたいと考えています。演題募集は初夏になると思います。是非ベテランの先生も若手の先生も含め、多くの方に参加・発表していただき、皆さまと顔を合わせて議論できることを期待しております。

今回は初めての運営委員長でご迷惑をおかけすることが沢山ありましたが、発表して下さった先生方、参加者の皆さん、会長、理事、運営スタッフ、全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

今後とも、香川県作業療法士会の活動にご協力、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

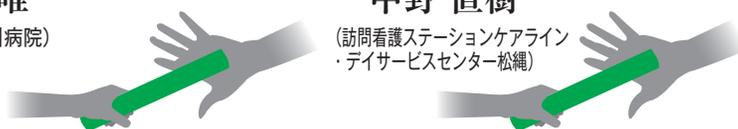


●●● **New!** ●●●
 ●●● **リレーエッセイ17** ●●●

泉宮 唯
 (三豊市立西香川病院)

中野 直樹
 (訪問看護ステーションケアライン
 ・デイサービスセンター松縄)

徳永 謙一
 (三船病院)



【変わることの先に】



コロナ禍での緊急事態宣言が初めて発令されたのが2020年4月で、その後の『失われた3年』を経て、今は2024年となり皆さんはどの様になりましたか？

私たちの生活は、世界情勢の影響を受け、現実的な制約も経験し、大きな変化があったと思います。しかし、その時の自分は、新たな生活様式へ順応すれども自身の変化はあまり感じていませんでした。そして月日は流れ、少しずつ自由を感じる兆しが戻り、自分も晴れて県外旅行を計画し実行することに。久々の旅行に最初は期待に胸膨らませて旅立ったのですが、終ってみると「なんで来たのかな？」と物悲しい感想だけが残ったのです。そんな自分に疑問を感じ、自問自答をする中で、どうやら自粛期間を経験し『外での楽しみ方』が分からなくなっていました。その後も何度か旅行をするも、楽しいとの実感は乏しく、その変化に戸惑うばかりでした。そんな中、ようやく一つの答えへ至ることに。それは…『初体験』が無いなど。実は、コロナ禍が明けた以降の旅行は『とりあえず県外』が目的で、旅行先でしたことは過去にも経験したおさらいばかり。そしてようやく「あ～、俺って初体験してないな…」と腑に落ちた以降は、旅行の目的を自分軸の初体験に変更し、そしてら…やっぱり楽しいですね！

失われた3年間を経験して改めて思うのは、自粛という同調圧力による影響で心の狭小化を引き起こし、それは自分にとって前向きな変化ではなかったと。人が生活する上で、外界からの影響を受けない事はまず無いと思います。であれば、その影響による変化は、より前向きであるべきと。だからこそ、自分がワクワクする事を積み重ね、心の視野を広げつつ、仕事もプライベートも大いに楽しみたいと思う今日この頃です。では、これからまた初体験を目的に旅行の計画を練ろうと思います。皆さんも、日々の生活に初体験を取り入れて変化することを大いに楽しんでください。

No.30

病院紹介

老人保健施設ライトハートいきいき荘

老人保健施設ライトハートいきいき荘の魅力は何といてもその立地です。JR宇多津駅北口正面すぐそばにあり、大変恵まれた場所にあります。

当施設では、入所 80 名、通所 30 名を定員としており、在宅復帰や在宅生活が維持できる事を目標に、理学療法士（1 名）と作業療法士（4 名）によるリハビリテーションを実施しています。

主に午前中は通所リハビリ、午後からは入所リハビリを行い、感染対策にも力を入れています。

リハビリ室は 4 階にあり、窓が大きく外が見渡せるため、「明るくて外が見えてええわ。気分もよくなる」と言って頂けます。通所で通われていた方が入所されても、同じリハビリスタッフなので、「リハビリ室へ来ると安心する」と言ってくださる方もおられます。

室内には各利用者様に合わせたリハビリが提供できるよう、トレーニング機器や手先を使う細かな物品、物理療法機器を設備しています。必要に応じて、自主トレーニングの指導も行っています。

また、通所やショートステイの担当者会議に出席したり、宇多津町と連携して地域ケア会議に参加することもあります。

今後も、地域の方々に必要とされる施設を目指してリハビリテーションを提供していきます。



(一社) 香川県作業療法士会
教育部主催

2024 現職者研修会



当研修会は(一社)日本作業療法士協会
生涯教育制度に基づいた基礎研修です。

参加資格は

(一社)日本作業療法士協会会員かつ

(一社)香川県作業療法士会員です。

※他都道府県士会員の方は香川県士会教育部まで
お問い合わせください。

現職者共通研修会 (参加費無料)

9月29日(日) 9:00~12:30 サンメッセ香川

9:15~10:45 保健医療福祉と地域支援

11:00~12:30 作業療法の可能性



共通研修申込

現職者選択研修会 (参加費4000円)

【選択】分野別研修 精神障害分野

10月27日(日) 9:00~17:00 サンメッセ香川

詳細はHP・メール・LINEにて順次配信いたします。



現職者選択精神障害申込

「こども委員会」の紹介



四国医療専門学校 西井 優子

こども委員会では、子どもの発達を支える作業療法士が自己研鑽できる場を提供するとともに、地域の子どもたちがのびのび成長できるように地域のニーズに応えるべく日々活動しています。

事業の運営に必要な話し合いや情報交換は、委員の移動の負担を考えて、ほぼオンラインを利用しています。日々の勤務で小児領域にて活躍している委員はもちろんのこと、普段は成人の領域（精神・身体・生活など）で勤務している委員もこども委員会の事業にかかわっています。

今回は、こども委員会をアピールできる貴重な機会をいただいたので、委員会活動をきっかけに小児にかかわることになった委員に感想を聞いてみました。

《主な事業内容》

- POS3 士会こどもサポートチーム
- 特別支援教育チーム
- 香川県保育士専門家派遣事業
- 巡回相談
多度津町学童保育
かるがもステップ教室
高松市「高松のびのび教室」
三豊市発達支援教室

小児の経験がない分、活動に対して不安に感じることはあります。しかし、「子どもの発達についてもっと学べる」、「小児関係のOTとの交流の場を持つことができる」という点で**自分自身の成長**に繋がると感じています。
また、こども委員会で活動をはじめ、他職種連携をとる中で**OTとしての専門性をより意識できる**ようになったと思います。

精神分野より
特別支援教育チームに協力



生活期より
多度津町学童保育巡回相談に協力



学童保育の巡回相談では、小児の領域に経験のある委員とともに訪問します。小児の領域が**はじめての挑戦**になる自分にとっては、**心強くチャレンジしやすい**システムで**安心**できます。

活動を知り、興味を持っていただけただけで十分です。もしよければ、一緒に子どもたちを支える一員としてご協力いただければと思います。

新しい分野への挑戦はジェネラリストへの一歩です。自分の未来は自分で作る！作業療法士の未来は作業療法士が確立していきましょう。

香川県作業療法士会 一般向け広報誌

「なんしょん?OTかがわ」ご紹介

香川県作業療法士会 広報部 いわき病院 村上 太気

香川県作業療法士会 広報部では年に数回、広報誌を制作・発行していますが、その広報誌には「会員向け」と「一般向け」が存在する事を、皆さんはご存知でしょうか？会員の皆様にとって「会員向け」広報誌は馴染み深いと思いますが、「一般向け」広報誌はあまり目にする機会はないかと思います。せっかく作った広報誌が知られていないのも寂しいので、この場をお借りして紹介させていただきます。

一般向け広報誌は、一般の方への作業療法啓発活動の一環として年に1回発行しており、今年度でVol.5となります。

コンテンツとしては、以下の通りです。

- 作業療法の説明**：作業療法の説明と具体的な内容の紹介。
- 施設紹介**：作業療法士が活躍している病院・施設の紹介。掲載したい施設様、絶賛募集中。
- 養成校・学生紹介**：県内の作業療法士養成校と、その学生の紹介。学生の初々しいコメントが見所。
- 作業療法士クイズ**：作業療法に関するクイズ。ページをめくってもらう為に、問題と答えは別のページに掲載。
- 県士会の事業紹介**：認知症予防キャラバンや高校への訪問説明会など、県士会の事業を紹介。リハ業務以外でも頑張っている事をアピール。

出来上がった広報誌は、県内のコープ各店・温泉施設・役場・図書館など、様々な施設様のご協力のもと、設置させていただいております。また、県士会のHP内の「広報誌バックナンバー」内でも公開中ですので、県士会員の皆様も是非ご覧下さい。

以上、簡単ですが一般向け広報誌のご紹介でした。

さて、ここで皆さんにお願いがあります。一般向け広報誌を見てみての感想を是非いただけたらな、と思っております。というのも、広報誌を見た一般の方からのフィードバックを得られる機会が現状無いので、感想や県民の皆さんの興味をひくような企画のアイデアなど、思った事を教えていただけると嬉しいです！

ご意見をいただける方は、こちらまで → taikim1@gmail.com

事務局からのお知らせ

○令和6年度香川県作業療法士会予算案の修正について

令和6年5月23日(木)に本士会の通常総会が開催されました。令和6年度通常総会議案書で第6号議案；令和6年度収支予算案を提示致しましたが、修正事項があり会員の皆様にご助言を頂き、修正をいたしましたのでご報告致します。

令和6年度 収支予算案(修正後簡易版)

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考	科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 収入の部					II 支出の部			
1. 基本財産運用収入					1. 管理費	1,890,000	1,950,000	△ 60,000
2. 事業収入					2. 事業費			
研修会等収入	280,000	430,000	△ 150,000		学術活動費	1,295,000	1,457,000	△ 162,000
3. 会費収入					教育活動費	650,000	837,000	△ 187,000
正会員会費収入	5,432,000	5,120,000	312,000	会員 8,000円×629名 会費未納者 8,000円×50名	広報活動費	710,000	772,000	△ 62,000
賛助会員会費収入	140,000	100,000	40,000	20,000円×7施設	制度対策活動費	87,000	70,000	17,000
4. 助成金					公共事業活動費	282,000	452,000	△ 170,000
地域活動費	866,000	980,000	△ 114,000	香川県助成金	委員会活動費	384,000	526,000	△ 142,000
5. 委託料	1,000,000	1,000,000		多度津町業務委託料	地域活動費	2,352,500	2,188,000	164,500
当期収入合計(A)	7,718,000	7,630,000	88,000		当期支出合計(C)	7,650,500	8,252,000	△ 601,500
前年度繰越金	4,671,718	5,135,123	△ 463,405		当期収支差額(A)－ (C)	67,500	△ 622,000	689,500
収入合計(B)	12,389,718	12,765,123	△ 375,405		次期繰越収支(B)－ (C)	4,739,218	4,513,123	226,095

修正事項としましては、会費収入(会員及び会費未納者)の科目となります。その他、詳細につきましては、事前に送付しております総会資料をご確認下さい。

○年会費について(令和6年度)

会員年会費：8,000円

令和6年6月にコンビニネットでの払込票を会員の皆様へお送りいたしました。令和6年6月1日～29日の使用期間となり、現在未納でお手元にお持ちの方はご使用になれません。今年度分の年会費が未納(複数年度分の方は未納期間分)の方は、お早め下記振込先まで納入して下さいますよう、よろしくお願い致します。

<振込先>

百十四銀行 県庁支店 口座番号：普通 0993345

加入者：一般社団法人 香川県作業療法士会 会長 松本嘉次郎

※ATMからの振込みの場合は、「氏名」⇒「施設名」の順で必ず入力をお願い致します。

※2年間以上未納の方は、会員資格喪失者扱いとなりますのでご注意ください。

○香川県作業療法士会の入会・退会・休会について

香川県作業療法士会ホームページの「各種届出書類」より用紙がダウンロードできます。ご提出の場合は個人情報にて、事務局まで郵送もしくはお持ち頂きますようお願い致します。

※「日本作業療法士協会」と「香川県作業療法士会」への入会にて正会員扱いとなります。

※休会をご希望される場合は、休会届を事務局へ提出して下さい。また、会員の皆様の現状を把握する為、1年毎の届け出をお願いしております。該当の方は、年度末を目安として、ご対応よろしくお願い致します。

※香川県作業療法士会の退会をご希望される場合は、該当年度までの会費の納入状況をご確認の上、退会届を事務局へご提出下さい。

○香川県作業療法士会からのお知らせについて

香川県作業療法士会ホームページ (<https://kagawa-ot.or.jp/>) では、「お知らせ」「活動報

告」「研修会の案内（県士会）」「研修会案内（関連団体）」等、随時更新をして情報発信をしております。また、会員の皆様への情報発信手段として、公式 LINE アカウントを開設しております。発信元より依頼があった場合に、投稿（研修会情報等）をしておりますので、ご登録がまだの方は是非ご利用下さい。

友達登録はこちらから



現在、メールアドレスをご登録いただいた方には、研修会情報等を一齐送信させていただいておりますが、登録アドレスの変更（エラー等）、通信状態より発信できない等の円滑な情報提供が出来ていないこともあります。今後に関しましては、「ホームページ」「SNS（LINE 等）」での情報提供を主とする仕組みを考えております。その際は、ご協力宜しくお願い致します。

<事務局>

香川県作業療法士会

住所：香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1 四国医療専門学校 3 号館 作業療法学科内

TEL：0877-41-2330 E-mail：kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

香川県作業療法士会マスコットキャラクター案大募集!

この度、香川県作業療法士会マスコットキャラクターを誕生させることになりました。そこで皆様からキャラクターのデザインを募集したいと思います。あなたが考えたキャラクターが公式キャラクターになるかも!?



はっきりとわかるものであればワード・写真等形式は問いません。

「県士会キャラクター」と題してキャラクター名と共に

下記メールアドレス迄送付よろしく願いいたします。

応募先：香川県作業療法士会 広報部 メール：kot_kouhou@yahoo.co.jp

■(一社) 香川県作業療法士会ニュース No.88■

編集長 木村勇介 (滝宮総合病院)

編集委員 福田かぐや (吉峰病院)

塩田未紅・安藤瑞基・大林美紀・田片孝祈 (松井病院)

村上太気 (いわき病院) 宇佐川雄太 (滝宮総合病院)